

「科学的特性マップに関する対話型全国説明会」参加報告

(要するに、地層処分の内容を国民に理解をしてもらうための説明会)

グリーンコープ生協ふくおか 組合員

【地層処分とは】

使用済み核燃料を、六ヶ所村再処理工場でリサイクルした際に発生する核のゴミ（高レベル放射性廃棄物）をガラスに溶かして固め、30～50年間貯蔵して温度が280℃から100℃に下がるのを待つ。その後、金属性容器に入れ、緩衝材で包み、地下300mに建設した巨大プラント（4万本以上埋設予定）に永遠に埋め込んでしまう処分方法。受け入れ自治体を公募し、地盤調査に入るが、完成までに100年程度かかる。

会場では、テーブル毎に参加者が7～10人座り、全体説明が終了後、各テーブルに職員2名が配置され、そこで参加者の質問に答える対話形式。

説明の中に「将来に負担させないように私たちの世代で終わらせる。人間が管理できないので自然にお任せする。」という驚くべきフレーズもあった。

あくまでも地層処分についての説明会で、意見や要望を聞く場ではない。全国を回り、説明責任を果たした既成事実をつくるためのものだという印象を受けた。

質疑応答

《グリーンコープ》

Q. 温泉を掘るのは1kmくらいは普通なのに、300mと聞いてビックリだ。大丈夫か？

A. 調査をした結果、安全なところが日本にはあることがわかっているので大丈夫。

Q. どこの誰が安全性を認めているのか？

A. 動燃が調査して、国際的な（聞き取れず）機関があり、そこで認めてもらっている。

Q. 地震がないと言われていた行橋市で直下型地震が発生している。断層があるかもしれない。発見されていない断層があるといわれているのに、埋めるのは無理ではないか？

A. 時間をかけて調査するので問題ない。

《C氏》

断層の無いところでも、ひずみにより地震が起きる。断層やプレートに関係なく

地震はどこでも起きる可能性があるものだ。

《A氏》

Q. 地層処分をした後は一切管理しないのか？

A. 自然の力にゆだねる。人の管理のいらない方法をとる。

Q. 例えば、平尾台は海底だった所が隆起してできた。地下300mは浅過ぎないか？地震学も確立されていないのに、学術的にはあり得ないが。

A. 日本国内に安全な場所はあることがわかっているので、しぼっていく。

《グリーンコープ》

Q. 現在、すでにガラス固化体2万5千本分の放射性廃棄物が日本に存在するのに、地層処理プラントが完成した時には、すでに足りないのでは？たちごっこにならないか？

A. 玄海原発は1年間で100本のガラス固化体ができる計算。その辺は考えて計画しているので問題ない。

《B氏》

Q. 自分は技術を持っているので、福島を除染に関わった。放射能除去にはケイ素が有効。放射能を無害に近づける方法は研究しないのか？外国の技術は取り入れられないのか？

A. 技術的な事はわからない。福島ではベントナイトが使われていたようだが。参考にする。

《A氏》

Q. 深海にプラントを作る方が安全だと思われる。海洋の方が外的なリスクが少ない。地層は動くので危険だ。地層処分は消去法か？

A. 地層処分は世界共通の認識だ。産業廃棄物の海洋投棄は国際的に禁止されているから無理。

《C氏》

Q. 検討が不十分だ。私は、ガラス固化体の開発研究に最初から関わった。技術的には地層処分は可能だ。しかし、この計画では無理、全てが雑で甘すぎる。これだと失敗するだろう。

A.

(ここで、全員やや動揺。どうやらA氏とC氏は何らかの専門家であることが判明し、職員は言葉に慎重になる。)

《A氏》

Q. そもそも六ヶ所村の再処理が上手くいってないでしょう？コスト計算が合わず、

最終的に雑な処分に移行されないか？国民に負担させないか？

A. いろいろ見ても、これを作っても原発は安い。コストは平均算出なので、大きく足りなくなる事はない。

Q. コストが10倍になったら、処理費用は5倍？10倍？

A. 本数が増えるても作業は同じなのでコストは下がる。増えても大丈夫。

《D氏》

Q. 電気は生活にも経済にも必要だ。原発に頼らざるをえないなら仕方ない。原発反対している奴らが一番電気を使っている。私は会社を経営しているが、原発なしでは全て無理だと思う。これは必要な事業ではないのか？

A. ご理解いただき、ありがとうございます。私達は国民の皆様に理解していただけるように説明をしています。

(おーっと！原発賛成者がいた。しかもひどい言い様だ)

《C氏》

Q. 地層処分場は住民が一人もいない国有地につくるべきだ。自治体に置くべきでない。その上や近隣に人を住まわせてはいけない。自治体に頼るべきでないと思うが、いかがか？自分は、女性やまだ若い研究者には、開発に関わらせなかった。したがる研究者が多かったが、癌になる可能性が高く、子どもが巣立った年齢の研究者を選抜した。

(一同、動揺する)

A. 安全性が確認されているので、その上に人が住んでも大丈夫。我々は問題ないという立場。ただ、将来の人々にその地下は危険と知らせ続ける必要があるが、まだその問題は解決していない。

《グリーンコープ》

Q. その上に人が住むことがありえるのか？

A. 住んでも問題ない。

(どうやら、人の住んでいる下に地層処理場を作る可能性もあるようだ)

Q. 福島では原発事故により大変な思いをしている。就職や結婚の差別まで発生している。日本は原発だらけで、ここは玄海や伊方に囲まれており、さらに地層処分場までできたら不安だ。

A. 福島のこと、あちこちで言われる。あの事故は私達も辛い。そのようにならないように慎重にすすめる。風評被害対策も考えている。

Q. 処分場建設途中で、断層がわかった時は建設をやめるのか？原発の近くの断層をなかなか認めない傾向があり信用できない。

A. それは20年かけて調べてから判断するので大丈夫。建設中に断層がわかったら、また考える。やめる判断をすると思う。

《C氏》

- Q. どこでも断層のある可能性がある。一箇所ではなく、離れた所にもう1つ処理場を作り、何かあれば移せるように備えるべきだが、その辺は考えているか？
- A. 建設地は一箇所のみ。何かあったらあきらめるということではない。いきなり地面が割れるということはない。取り出さないことが前提だが、掘り出して対策を取ることは可能だ。

《グリーンコープ》

- Q. なぜ、二箇所建設ができないのか？リスク対策しないのか？

《A氏》

- Q. 結局、予算の問題だろう？政治家の判断だから、ということだ。断層を隠して、×××原発を建設した過去があるだろう？繰り返して信用されてない。
- A.

《C氏》

- Q. どこが割れるか誰にもわからない。地層処分はやらんといけんことだから、もっと知恵を出すべき。埋めた後で問題が起きた時の移す体制を整えないのか？リスク対策は？取り出す前提で考えるべきでは？
- A. 大丈夫な場所で自然に任せて取り出さない。空気に触れると容器が酸化する。
- Q. 例えば、外国にセラミックの千年コンクリート技術があるのに、なぜ国は原子力に最先端の技術を使わないのか？安くあげようとするのか？
- A. 新しい材料は知らなかった。しかし、新しい技術は予測がつかないので、使い慣れたものを使った方が対応しやすい。新しいもののリスクはわからないので、従来のやり方で行う。

《グリーンコープ》

- Q. 地層処分の実績のある北欧の地層は19億年動いていないから日本列島とは大きく条件が違うのに大丈夫なのか？
- A. 北欧はうらやましい環境だ。しかし、実はそのような強固な地盤でも水の浸入に苦労している。割れ目も多い。
- Q. 水が悪いのか？
- A. 日本も水と火山を避ければ大丈夫と言われているので、地層が動きやすい土地でも可能だ。火山は急にできたりしないので、調べれば大丈夫。ただ、北欧も遠い未来の世代に核廃棄物処理場がそこにある事実を、どのように伝えるのか確立されてない。

《D氏》

Q. 一番危ない所にテストプラントを作るのはどうか？最悪のパターンをやってみて、安全なプラントを作れる技術を培い、それを安全な場所に作っては？

(一同、賛成)

A. それはやる予定ではない。

《グリーンコープ》

Q. どこに持って行けば、そのような意見が活かされるのか？原子力施設の側で暮らすのは、母親として不安でたまらない。深刻な風評被害や・・・将来の世代も幸せでいてほしい・・・(等々、情に訴えてみた)

A. 専門家もいらして、正直、皆さんのご意見やご指摘にぐうの音も出ない。私達はこの事業について、誠意を持って説明し、理解をしていただくことをしていて、聞いた意見をどうかできる立場でないの・・・

《A氏》

Q. では、NUMOにとって、何が一番リスクと思われるか？答えづらければ君個人の見解でも良い。

A. うーん、それぞれの問題に対策を考えている。技術的なところはシミュレーションを重ねたり、風評被害のところは、説明を重ねていく。

自分は、処理場ができたなら、家族と共にそこに移住しようと思っている。見届けると言うか、そこの人々にだけ背負わせたくないと言うか・・・

Q. え～？移住するの？

A. はい、移住を考えてます。僕なりの責任を取るというか・・・

Q. え～？処理場ができる頃、君は生きてないよ。早くて100年後だろう？君大丈夫かい？(肩を優しくたたきながら)その頃は我々がどうこうできないよ。

A. あー、そうだった。でも、私は受け入れ自治体のために何かしたいんです。

(一同、爆笑。場が和んだ。説明する側の苦悩を感じた)

《C氏》

Q. 建設する場所だけは問題だ。リスクマネジメントがなってない。政治家が単独で決めるから問題だ。NUMOと技術屋と政治家がタッグを組んで、知恵や情報をつないでいけないのか？

A. NUMOとしては安全性を訴えていくしかない。

《A氏》

Q. スウェーデンでは、地層処理場を観光地化しようという構想があるが、日本はどうか？

A. そこまでは話しがすすんでない。

説明会終了後、A氏は「実は、この説明会は福島では開かれてないんだよ。福島原発跡地や立ち入り禁止区域が第一候補にあがっている。九州には作らないと思うよ」と、衝撃の一言を残して去っていった。

地下300mに納得できない私は、その根拠を職員に詳しく聞いた。「地下300mは、酸素が届かないので、ガラス固化体を包む金属製のオーバーパックが腐食しにくい。地下水が流れ込みにくい」とのこと、資料通りの返答だった。

感 想

参加者が原発に賛成なのか反対なのかははっきりとは不明だったが、増え続ける核廃棄物は何とかなければということについては一致していた。どこを切り取っても矛盾と不安がてんこ盛りで、質問をしても疑念が深まるばかりだった。カミオカンデの様子や物理学などが飛び出すなど、一般の人と協議でき、興味深い話が聞けて勉強になった。参加者の意見要望がどこにもつないでもらえないのは残念だ。でも、明らかに原発賛成のD氏は核燃料の問題点が理解できた様子があり、それだけでも成果だったと思いたい。